



雨の多い季節になりました。

気温が安定せず毎日着るものに悩んだり、汗をかいて上手に調節ができず体力が消耗して病気になりやすい時期でもあります。

ご家庭の方でも十分な睡眠と栄養を心がけて元気よく梅雨を乗り切りましょう。



百日咳について



東海中央病院小児科医 上野 たまき

全国的に流行している百日咳は、激しい咳が長く続くことが特徴の感染症で、大人は軽症の事が多いのですが、乳児では、呼吸困難や無呼吸など重篤な症状がでることがあります。

初期はかぜ症状ですが、1週間ほどで、発作性の激しい咳が夜間にみられるようになり、次第に終日続くようになります。ワクチンで予防できますが、年齢とともに免疫が低下してしまうため、幼児～学童期には予防できないことがあります。

治療を開始しても、咳の原因は百日咳菌が出す毒素による気道過敏が原因であるため、咳がとまるわけではありません。しかし、抗菌薬を飲むことで、周囲への感染を防ぐことができます。抗菌薬が効きにくい耐性菌の報告もありますが、発症初期（風邪に似た時期）に治療を始めることで、重症化や周囲への感染を防げます。

早期受診と家族全体での予防が大切です。



百日咳の予防



主にワクチン接種が有効です。

乳幼児は生後2か月から5種混合ワクチン（以前は4種混合ワクチン）を定期接種として追加も含めて4回接種します。定期接種はこれで終了ですが、ワクチンによる予防効果は、約5年～10年間となるため、任意接種として就学前に3種混合ワクチンを追加接種しておくことが推奨されています。

※軽くても症状がある場合、小さい子が居るご家庭には遊びに行かない。

流行時期には小さな子をつれて、人が多く集まる場所には出かけない。

乳幼児以外は症状が軽いので、普通に生活されていることが多いため、外出時・外出後は右絵図を参照に感染予防に気をつけてください。

感染予防のために

- せきが出るときは
マスクをつける
- こまめに手を洗う
- せきが続くときは受診する



百日せきと診断されると、抗菌薬が処方されます。量や期間を守って、正しく飲みましょう。

お昼ごはんについて

昼食は申し出があれば用意させて頂いてますが、病状や年齢によっては持参をお願いしています。特に初めての利用のお子さんは食べが悪いことが多いので、日頃から食べ慣れている物を持参して頂いた方がよいと思います。

（アレルギーのある方は持参をお願いしています）

※ごはんのこと、それ以外でも聞きたいことがありましたらお気軽にお問い合わせください。

